

白ネギ栽培におけるネギアザミウマに対するローテーション防除の 効果

1 情報・成果の内容

(1) 背景・目的

薬剤抵抗性害虫の発生報告は絶えずあり、白ネギの害虫であるネギアザミウマについても、カーバメート系、ネオニコチノイド系、合成ピレスロイド系、有機リン系等の薬剤に対する抵抗性が既に確認されている。既存薬剤の防除効果を維持するため、同系統の薬剤連用を避けたローテーション防除体系の防除効果を確認したので紹介する。

(2) 情報・成果の要約

同一系統の連用を避けたローテーション防除体系は既存薬剤の体系と比較して、同等以上の防除効果を示した。(表、図1、図2)

2 試験成果の概要

(1) ‘関羽一本太’を2019年2月20日に播種し、5月8日に定植して試験を実施した。ネギアザミウマは定植時から多発し、甚～多発生条件下での試験となった。7月以降は無処理区においても数が減少していった。

(2) 定植時の苗箱灌注処理剤の効果を比較すると、アルバリン顆粒水溶剤(50倍、0.5L/トレイ灌注)に対して、ベリマークSC(400倍、0.5L/トレイ灌注)は高い防除効果を示した。(図1、2)

3 利用上の注意点

- 1) 本試験は境港市中海干拓地の弓浜砂丘地分場内のネギ圃場にて調査を実施した。ネギアザミウマの個体群は、地域によって優占種が異なり、防除効果が異なる可能性もある。
- 2) 薬剤の系統によっては既に抵抗性が発達している可能性があるため適宜薬剤感受性の検討が必要である。
- 3) 茎葉散布防除は、発生状況に応じて実施する。

表 各試験区で用いた薬剤一覧

防除体系	処理時期 定植時(5月8日)	6月6日	6月26日	7月16日	8月5日	8月26日	9月19日	コスト対比 ²
既存薬剤区	アルバリン顆粒水溶剤	ベストガード粒剤	ディアナSC	ハチハチ乳剤+マッチ乳剤	スピノエース顆粒水和剤	ベストガード粒剤	ディアナSC	100
防除体系	ベリマークSC	アグリメック	グレーシア乳剤	ファインセーブフロアブル	リーフガード顆粒水和剤 +マッチ乳剤	ベストガード粒剤	ディアナSC	78.9
無処理区								

² 慣行区を100とした数字

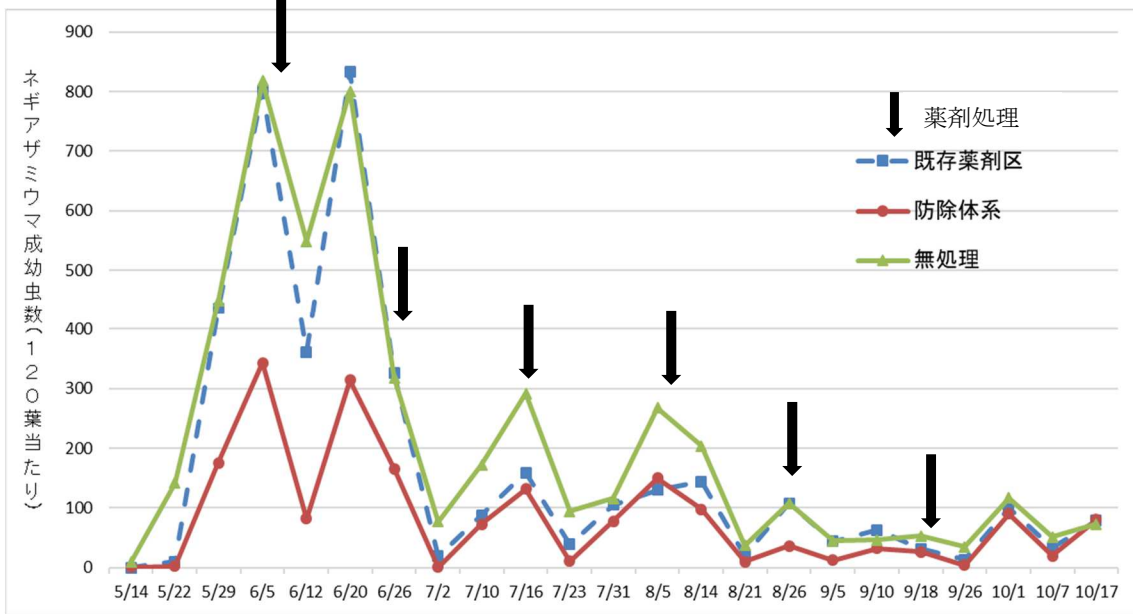


図1 ネギアザミウマ成幼虫数の経時推移

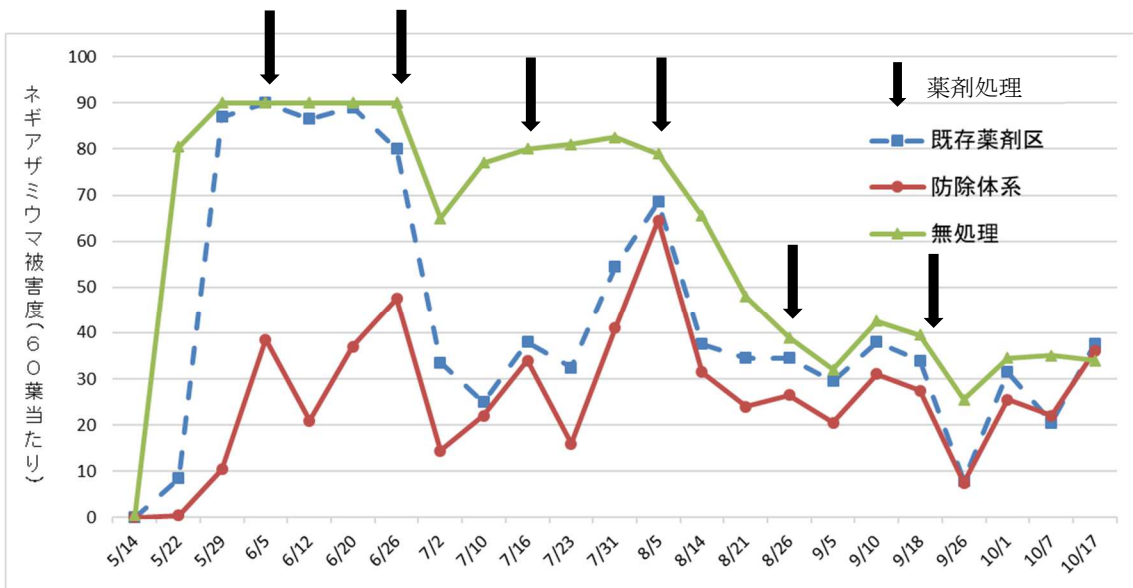


図2 ネギアザミウマによる被害度の経時推移

4 試験担当者

弓浜砂丘地分場	研究員	梶本悠介
	主任研究員	井上浩
	分場長	中村博行